

大学入試への民間試験導入の延期に思うこと

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 先週、文部科学省から、大学入試の英語への民間試験導入を延期するという発表がありました。そもそもは従来の英語の大学入試のやり方を大幅に変えようということで、現在の高校2年生から民間試験を導入する予定でした。
ところが、文部科学大臣が失言をしたことをきっかけに、野党の議員たちがもっとちゃんと考えるようにといい始めました。それに文部科学省が屈してしまい、議論が十分でなかったということで、民間試験の導入が延期になってしまったのです。私は十分な議論をしたのではないかと思うのですが、そのようなことになりました。
3. これは大変なことです。民間試験の導入の議論は何年も前からあり、その結果として現在の高校2年生から実施の予定でした。そのため、教育現場では、英語検定や GTEC など様々な民間試験について、いつ何を受けようか・どのように利用しようかと考えてきました。実際に、学校によっては全員で英語検定を受けよう、GTEC を受けようなどと準備をしていたところもたくさんありました。
4. しかし、野党は文部科学大臣の失言を理由にもう一度見直すように求めました。安倍内閣は既に何人もの閣僚が辞任しているため、再びそうならないようにとの政治的判断だと思いますが、英語への民間試験導入を延期することにしました。
5. 先週から新聞などで盛んに報道されていますので、放送をお聴きの皆様もご存知だと思います。私もいくつかの新聞社から取材を受け、コメントを載せていただきました。私は、英語の民間試験の導入が遅れることは、子どもたち、特に大学入試の受験生にとって非常に迷惑なことで、本当に遺憾に思うという旨の意見を述べさせていただきました。
ただ、英語の試験で、読む・聞く・書く・話すという英語の4技能を同じ配点にする考えには賛成です。ぜひ進めていただきたいと思います。それにしても、次はこのようなことがないように、政治家の皆様には留意していただきたいです。

6. 決定したことは変えられませんので、私たちはそれにそって対策を練るしかありません。では、どうしたらよいのでしょうか。英語の4技能の大切さは変わることがありませんので、コミュニケーションの手段としての英語の本質をもっともっと深く突き詰め、どのような形で大学入試が実施されようとも即対応できる実力を備えることが受験生の役割だと考えます。

また、学習塾や学校も、英語の4技能に対応できる実力が備えられる英語教育を行っていくべきだと思います。

7. 大学入試の英語への民間試験導入は頓挫しましたが、コミュニケーションの手段としての大切さは変わりません。そこで、英語を読んだり聞いたり書いたり話したりすることの前提条件をお話します。

8. それは3つあります。1つは、身に着けていることばの数(単語数)が多いことです。2つ目は、文法を理解することです。文法をないがしろにしては、英語の学習は成り立ちません。大切なところをしっかりと押さえてください。3つ目は、読解力をつけることです。読んでわからないことは、聞いてもわからないからです。

9. このように、英語を身に着ける上で大切なことは、ことばの数を増やすこと、文法の力をつけること、読む力をつけることだと思います。

大学入試への民間試験導入は、少し遅れるのか、中止になるのかわかりません。とにかく英語を読む・聞く・書く・話すという4技能はすべて大切ですから、その前提となることばの数・文法の力・読む力をつけたほうがよいというのが私の考えです。ぜひ頑張ってくださいと思います。